

令和3年度文化庁委託事業「戦略的芸術文化創造推進事業」
令和3年度(第76回)文化庁芸術祭協賛公演

新国立劇場 2021/2022 シーズンオペラ

オペラ夏の祭典 2019-20 Japan↔Tokyo↔World

R. ワーグナー

ニュルンベルクの マイスタージンガー

Die Meistersinger von Nürnberg **新制作**

2021年11月18日(木)~12月1日(水)

会場:新国立劇場オペラパレス 2021年9月4日(土) 前売開始



ザルツブルク・イースター音楽祭公演より ©OFS/Monika Rittershaus

オペラ夏の祭典 2019-20、ついに完結！ ワーグナーの祝祭的芸術讃歌が高らかに響く

新国立劇場と東京文化会館が展開する「オペラ夏の祭典 2019-20 Japan↔Tokyo↔World」の第2弾。『ニュルンベルクのマイスタージンガー』は、誰も耳になじみのある勇壮な前奏曲に始まり、活き活きとした人間模様と芸術の理想が壮大に描かれる、祝祭感あふれる人気作です。本公演は新国立劇場、東京文化会館とザルツブルク・イースター音楽祭、ザクセン州立歌劇場の共同制作。ザルツブルクでの初演、ドレスデンでの上演後、2020年の上演予定が中止となりましたが、待望の上演が実現しました。マイヤー、エレートら世界のワーグナー歌手と日本の実力派歌手が贅沢にも集結、大野和士芸術監督指揮により、ワーグナーの芸術讃歌が3年越しとなった「オペラ夏の祭典」を締めくくります。

※新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じた新時代の生活様式を考慮した演出により上演いたします。

※招聘キャストにつきましては、日本への出入国制限の状況により変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

＜資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ＞

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

花嫁をかけた歌合戦の栄冠は誰の手に？ ワーグナーの芸術讃歌

ワーグナーの大作『ニュルンベルクのマイスタージンガー』は、芸術における伝統と革新性の対立、寛大なる父性、年長の男性が若い娘に向ける純愛と諦念などが絶妙な音楽で描かれる、祝祭的作品です。上演に大人数と長時間を要す大スケールの作品で、人間味あふれるドラマを通じ、「伝統に対する敬意と新しいものへの意欲こそ芸術の永遠性を生む両輪である」というワーグナーの芸術讃歌が響きます。

東京文化会館及びザルツブルク・イースター音楽祭、ザクセン州立歌劇場との共同制作による本プロダクションの演出は、ドイツ気鋭の演出家イエンス＝ダニエル・ヘルツォーク。舞台を“劇場”とし、花嫁をかけた歌合戦をめぐる人間関係の悲喜こもごもが、現代の劇場の人間関係をメタファーに、活き活きと描かれます。

指揮は大野和士芸術監督自らが務め、新国立劇場でも大人気のアドリアン・エレートが、ザルツブルク、ドレスデン公演に続き当たり役ベックメッサーに出演するほか、世界最高峰のワーグナー・バリトンのトーマス・ヨハネス・マイヤー、躍進中のトミスラフ・ムツェック、望月哲也、林正子と華やかなキャスト、そしてマイスター達として日本を代表する男性歌手陣が贅沢にも勢ぞろいして祝祭作を上演します。オーケストラピットには、大野和士が音楽監督を務める東京都交響楽団が入ります。



オペラ夏の祭典 2019-20 Japan⇔Tokyo⇔World 第2弾。国内外の劇場と手を携えて展開したオペラの祭典がついに完結！

オペラ夏の祭典 2019-20Japan⇔Tokyo⇔World は、新国立劇場と東京文化会館が各地の劇場と連携して展開してきたオペラプロジェクトです。総合プロデュースは東京都の芸術文化評議員も務める大野和士。「五輪にちなんでヨーロッパ、アジア、北米、南米、南アメリカ五大大陸のオペラを」との大野の発案から、初年の2019年はアジアが舞台の『トゥーランドット』(ブッチェニ)を、2020年夏にはワーグナーの祝祭的作品『ニュルンベルクのマイスタージンガー』を計画。『トゥーランドット』は東京文化会館、新国立劇場で上演後、びわ湖ホール、札幌文化芸術劇場 hitaru でも上演され、各地で大いに話題となりました。

『ニュルンベルクのマイスタージンガー』はザルツブルク・イースター音楽祭、ザクセン州立歌劇場、東京文化会館との国際共同制作で制作され、ザルツブルクで2019年4月に初演後、ドレスデンで2020年1月～2月に上演されました。続いて東京での上演を2020年6月に予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響でいったん中止となり、2021年8月に東京文化会館で、11～12月に新国立劇場で上演されることとなりました。3年越しとなったオペラ夏の祭典も、今回の『ニュルンベルクのマイスタージンガー』新国立劇場公演でいよいよ締めくくりとなります。※本年8月に予定されていた東京文化会館公演は中止となりました。

<「ニュルンベルクのマイスタージンガー」ものがたり>



【第1幕】 ニュルンベルク。聖カテリーナ教会で騎士ヴァルターはエーファに一目惚れする。ヴァルターは翌日のマイスタージンガーの歌合戦の勝者がエーファを花嫁にできるとマグダレーネから聞き、自分も歌合戦に参加しようと徒弟のダーヴィットから歌の心構えを聞く。書記ベックメッサーとエーファの父ポーグナーが現れるのでヴァルターは試験を受けたいと頼みこむ。明日の合戦について協議する親方達の前で、ヴァルターは自作の歌を披露する。歌の途中でやはりエーファとの結婚を目論むベックメッサーが非難を口に始め、靴屋のハンス・ザックスのみが、認めるべき箇所が多いと擁護する。失格となったヴァルターは意気消沈する。

【第2幕】 エーファは、騎士の様子を父親に訊ねるが、彼は言葉を濁す。ザックスがエーファを愛する心を歌っていると、当の彼女が現れてヴァルターの出来について聞きだそうとする。エーファのヴァルターへの愛が本物だと知ったザックスは、彼女のために動こうと決心。エーファを訪ねて来たヴァルターはことの次第を悔しげに語り、駆け落ちを迫る。ベックメッサーがエーファの部屋の下でセレナーデを歌おうとすると、ザックスが金槌の音を立てて邪魔をし、エーファの身代わりで窓辺に立つマグダレーネの姿に、彼女と恋仲のダーヴィットが気付いて大騒動に。騒ぎに乗じて家を出ようとしたエーファとヴァルターの前にザックスが飛び出して、騎士を家に引っ張り込み、娘は父親に引き渡す。

【第3幕】 翌朝。ザックスは自分の迷いから逃れられない。ヴァルターが夢に見た話を語るので、ザックスはそれを歌にせよと励ます。ベックメッサーが訪ねて来て、ザックスが書き留めたヴァルターの歌を自分のものにしてしまう。エーファはヴァルターとともに、ザックスに感謝の気持ちを表す。歌合戦でベックメッサーが歌いだが上手く行かず、責任をザックスに被せる。ザックスは同じ歌をヴァルターに歌わせ、皆は彼の歌いぶりに感動する。勝利が決まったヴァルターにザックスが伝統の重みを説き、一同がザックスを讃える。



ザルツブルク公演より ©Monika Rittershaus

＜主要キャスト・スタッフプロフィール＞

【指揮】大野和士

ONO Kazushi

東京生まれ。東京藝術大学卒。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。世界各地でオペラ公演及びシンフォニーコンサートで聴衆を魅了し続けている。90～96年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年モネ劇場音楽監督。12～15年アルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、08～16年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団、バルセロナ交響楽団音楽監督。オペラでは、07年にミラノ・スカラ座にデビューし、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへ出演。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年にはリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス2017」を獲得し、フランス政府より芸術文化勲章オフィシエ、リヨン市からリヨン市特別メダルが授与された。18年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。新国立劇場では98年『魔笛』、10～11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』、20年『アルマゲドンの夢』、21年『ワルキューレ』『カルメン』を指揮しており、今後は子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ『Super Angels スーパーエンジェル』、21/22シーズン『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『ペレアスとメリザンド』を指揮する予定。



【演出】イエンス＝ダニエル・ヘルツォーク

Jens-Daniel HERZOG

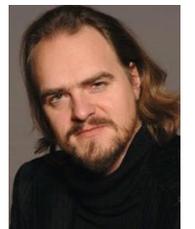
マンハイム国民劇場演劇監督を経て、2011年～18年ドルトムント歌劇場総監督。18年秋よりニュルンベルク歌劇場監督。マンハイムのほか、18年までチューリヒ劇場、ハンブルク・ターリア劇場、ウィーン・ブルク劇場などで多くの演劇作品を演出し、ベルリン芸術週間、ミュールハイム演劇祭などに招待されている。オペラでは、チューリヒ歌劇場『タンホイザー』『スペードの女王』『オルランド』『遙かなる響き』（シュレーカー）、マンハイムで『コジ・ファン・トゥッテ』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』、ニュルンベルク歌劇場『アイダ』『トスカ』、韓国国立劇場『ハムレット』、フランクフルト歌劇場『ローエン格林』、ザクセン州立歌劇場『ジュリオ・チェーザレ』、ドルトムント歌劇場『さまよえるオランダ人』『ドン・ジョヴァンニ』『トリスタンとイゾルデ』『リナルド』『オテロ』『アラベッラ』『ナブッコ』などを演出。。最近では、ニュルンベルク歌劇場『戦争と平和』『アンナ・ニコル』（ターネジ作曲）『コジ・ファン・トゥッテ』『ドン・カルロ』などを演出している。新国立劇場初登場。



【ハンス・ザックス】トーマス・ヨハネス・マイヤー（バリトン）

Thomas Johannes MAYER

ドイツ生まれ。ケルン音楽大学で声楽をクルト・モルに師事。ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザルツブルク音楽祭などに出演。レパートリーは幅広く『ワルキューレ』ヴォータン、『ジークフリート』さすらい人、『ドン・ジョヴァンニ』『ヴォツェック』タイトルロール、『アラベッラ』マンドリカ、『サロメ』ヨハナーン、『魔弾の射手』カスパールなどを歌っている。最近では、ワーグナー作品を中心にバイエルン州立歌劇場「ニーベルングの指環」ヴォータン、パイロイト音楽祭『ローエン格林』テルラムント（2013年、14年、19年）、『パルジファル』アムフォルタス（18年）、ベルリン・ドイツ・オペラ『ワルキューレ』ヴォータン、『マクベス』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、オランダ国立オペラ『ラインの黄金』『ワルキューレ』ヴォータン及び『ジークフリート』さすらい人、ウィーン国立歌劇場『パルジファル』アムフォルタス、『フィデリオ』ドン・ピツァロ、ベルリン州立歌劇場『サロメ』ヨハナーンなどに出演。新国立劇場では09年『ヴォツェック』タイトルロール、10年『アラベッラ』マンドリカ、15年『さまよえるオランダ人』タイトルロールに出演している。



【ファイト・ボーグナー】ギド・エンティンス（バス）

Guido JENTJENS

ケルン音楽大学で学び、デュッセルドルフ歌劇場のオペラスタジオにて歌手活動を始める。2005年から13年までニュルンベルク州立劇場専属歌手の一員となる。専属歌手及びゲストとしてアウクスブルク、エアフルト、カールスルーエ、ヴィースバーデンの各劇場に出演。レパートリーは『ローエン格林』ハインリヒ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ボーグナー及びハンス・ザックスをはじめ多数。近年では『青ひげ公の城』青ひげ、『神々の黄昏』ハーゲンのロールデビューは高く評価された。ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク歌劇場、ザクセン州立歌劇場など、オペラやコンサートのゲスト出演として世界中で活躍。2002年にはパイロイト音楽祭に『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ボーグナーで出演。2013年、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』の新制作でザルツブルク音楽祭でデビューを飾って以降、多くの名高い音楽祭にたびたび招待されている。新国立劇場では、2010/2011シーズン『トリスタンとイゾルデ』マルケ王に出演した。



【ジクストウス・ベックメッサー】アドリアン・エレート（バリトン）

Adrian ERÖD

オーストリア出身。2001年グノー『ロメオとジュリエット』マキューシオでウィーン国立歌劇場にデビュー。ウィーン国立歌劇場の専属歌手として『セビリアの理髪師』フィガロ、マスネ『マノン』レスコー、『死の都』フランク、『ウェルテル』アルペール、『ヘンゼルとグレーテル』ペーターなどで出演を重ねる。フェニーチェ歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、フランクフルト歌劇場、パリ・オペラ座、ヒューストン・グランド・オペラなどにも出演。09年に『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ベックメッサーでパイロイト音楽祭に初登場後、同役でチューリヒ歌劇場、ライプツィヒ歌劇場、オランダ国立オペラなどに出演を重ねた。ウィーン国立歌劇場『ラインの黄金』ローゲ役は国際的に高い関心を集め、ブレゲンツ音楽祭でのアンドレ・チャイコフスキー『ヴェニス



の商人』世界初演のシャイロック役も高く評価された。新国立劇場には11年『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、11年、15年、18年『こうもり』アイゼンシュタイン、14年『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、16年『ウェルテル』アルベールに出演。本プロダクションのザルツブルク・イースター音楽祭、ザクセン州立歌劇場公演にも出演している。

【フリッツ・コートナー】青山 貴(バリトン)

AOYAMA Takashi

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。二期会オペラスタジオ第44期マスタークラス修了。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁、ローム ミュージック ファンデーションの奨学金を得てボローニャ、ミラノで研鑽を積む。第19回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。第4回マгда・オリヴェーロ国際コンクールファイナリスト。これまでに二期会『仮面舞踏会』レナート、『ナブッコ』タイトルロール、日生劇場『ドン・ジョヴァンニ』レポレツコ、『セビリアの理髪師』フィガロ、『魔笛』パパゲーノ、びわ湖ホール『さまよえるオランダ人』オランダ人、『ラインの黄金』ヴォータン、『ワルキューレ』ヴォータン、『ジークフリート』さすらい人などに出演。新国立劇場では『カルメン』モラレス、『黒船-夜明け』第二の浪人/漁師、『トゥーランドット』官吏、『ホフマン物語』シュレーミル、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』スカルピア、『ラ・ボエーム』マルチェット、『蝶々夫人』シャープレス、『カルメン』エスカミーリョなどに出演している。二期会会員。



【ヴァルター・フォン・シュトルツィング】トミスラフ・ムツェック(テノール)

Tomislav MUŽEK

ドイツのジーゲン生まれ(家族はクロアチア出身)。ウィーン音楽大学で学ぶ。ウィーン国立歌劇場、プレーメン歌劇場の専属歌手を経て、2002年バイエルン州立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオで成功を収める。これまでにウィーン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ボローニャ歌劇場、パリ・オペラ座、パイロイト音楽祭、ルール・トリエンナーレなどで、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『愛の妙薬』ネモリーノ、『椿姫』アルフレード、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『蝶々夫人』ピンカートン、『エウゲニ・オネーギン』、『サロメ』ナラポートなどに出演している。最近では、ザクセン州立歌劇場で『魔笛』タミーノ、『魔弾の射手』マックス、『ドン・カルロ』タイトルロール、『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『フィデリオ』フロレスタン、ザクセン州立歌劇場、パイロイト音楽祭、バイエルン州立歌劇場、リヨン歌劇場、マルセイユ歌劇場での『さまよえるオランダ人』エリック、ベルリン・ドイツ・オペラ『ホフマン物語』タイトルロールなどがある。新国立劇場では、11/12シーズン『さまよえるオランダ人』エリックに出演している



【ダーヴィット】望月 哲也(テノール)

MOCHIZUKI Tetsuya

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。学部在学中に安宅賞、松田トシ賞受賞。平成19年度文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。ウィーン国立音楽大学研究課程リート・オラトリオ科に在籍し研鑽。第35回日伊声楽コンクール第3位。第11回奏楽堂日本歌曲コンクール第2位。第70回日本音楽コンクール第2位。これまでに『椿姫』アルフレード、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『ラ・ボエーム』ロドルフォなどに出演。新国立劇場では『フィガロの結婚』バジリオ、『アラベッラ』エレメル伯爵、『トリスタンとイゾルデ』牧童、『サロメ』ナラポート、『さまよえるオランダ人』舵手、『ピーター・グライムズ』ホレス・アダムス、『タンホイザー』ヴァルター、『魔笛』タミーノ、『夜叉ヶ池』晁、『ヴォツェック』アンドレス、『アラベッラ』エレメル伯爵、『夕鶴』与ひょう、『マノン・レスコー』エドモンド、『ローエングリン』ブラバンドの貴族I、『アルマゲドン』の夢』歌手/冷笑话などに出演。二期会会員。



【エーファ】林 正子(ソプラノ)

HAYASHI Masako

東京藝術大学卒業。同大学院、二期会オペラスタジオ修了。ジュネーヴ音楽院ソリスト・ディプロマ取得。五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。スイス・ロマンド管弦楽団『ドイツ・レクイエム』に出演するほかオーストリアでの音楽祭、ナポリ・サンカルロ歌劇場でのヴェルディ『レクイエム』などヨーロッパを拠点に活動。国内では二期会『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エーファ、同『皇帝ティートの慈悲』ヴィテツリア等に出演。さらに、二期会『サロメ』タイトルロール、『ダナエの愛』ダナエ、『ナクソス島のアリアドネ』アリアドネ/プリマドンナ等立て続けに主演、2017年二期会『ばらの騎士』元帥夫人では表現力豊かな演唱で高い評価を得た。18年には同『ローエングリン』エルザ、19年『金閣寺』母等でも出演。ベートーヴェン「第九」、マーラー「千人の交響曲」等全国各地の主要オーケストラと共演し、コンサート・ソリストとしても活躍している。新国立劇場では『椿姫』フロラ、『魔笛』パミーナに出演している。ジュネーヴ在住。二期会会員。



令和3年度文化庁委託事業「戦略的芸術文化創造推進事業」
 令和3年度(第76回)文化庁芸術祭協賛公演
 新国立劇場 2021/2022 シーズンオペラ
 オペラ夏の祭典 2019-20 Japan⇔Tokyo⇔World
 R. ワーグナー ニュルンベルクのマイスターズジグナー
 Richard WAGNER / Die Meistersinger von Nürnberg
 全3幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

【公演日程】2021年11月18日(木)16:00/21日(日)14:00/24日(水)14:00/28日(日)14:00/12月1日(水)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:33,000円・A:27,500円・B:19,800円・C:13,200円・D:6,600円・Z:1,650円

【前売開始】2021年9月4日(土)

※新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じた新時代の生活様式を考慮した演出により上演いたします。

※招聘キャスト、指揮者につきましては、出入国制限の状況により変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

指揮	大野和士	ハンス・ザックス	トーマス・ヨハネス・マイヤー
Conductor	ONO Kazushi	Hans Sachs	Thomas Johannes MAYER
演出	イエンス＝ダニエル・ヘルツォーク	ファイト・ポグナー	ギド・イェンティンス
Production	Jens-Daniel HERZOG	Veit Pogner	Guido JENTJENS
美術	マティス・ナイトハルト	クッツ・フォーゲルゲザング	村上公太
Set Design	Mathis NEIDHARDT	Kunz Vogelgesang	MURAKAMI Kota
衣裳	シビル・ゲデケ	コンラート・ナハティガル	与那城 敬
Costume Design	Sibylle GÄDEKE	Konrad Nachtigall	YONASHIRO Kei
照明	ファビオ・アントーチ	ジクストウス・ベックメッサー	アドリアン・エレート
Lighting Design	Fabio ANTOCI	Sixtus Beckmesser	Adrian ERÖD
振付	ラムセス・ジグル	フリッツ・コートナー	青山 貴
Choreographer	Ramses SIGL	Fritz Kothner	AOYAMA Takashi
演出補	ハイコ・ヘンツェル	バルタザール・ツオルン	菅野 敦
Associate Director	Heiko HENTSCHEL	Balthasar Zorn	KANNO Atsushi
舞台監督	高橋尚史	ウルリヒ・アイスリンガー	鈴木 准
Stage Manager	TAKAHASHI Naohito	Ulrich Eisslinger	SUZUKI Jun
		アウグスティン・モーザー	伊藤達人
		Augustin Moser	ITO Tatsundo
合唱指揮	三澤洋史	ヘルマン・オルテル	大沼 徹
Chorus Master	MISAWA Hirofumi	Hermann Ortel	ONUMA Toru
合唱	新国立劇場合唱団、二期会合唱団	ハンス・シュヴァルツ	長谷川 顯
Chorus	New National Theatre Chorus	Hans Schwarz	HASEGAWA Akira
	Nikikai Chorus Group	ハンス・フォルツ	妻屋秀和
管弦楽	東京都交響楽団	Hans Foltz	TSUMAYA Hidekazu
Orchestra	Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra	ヴァルター・フォン・シュトルツィング	トミスラフ・ムツェック
		Walther von Stolzing	Tomislav MUŽEK
		ダーヴィット	望月 哲也
		David	MOCHIZUKI Tetsuya
芸術監督	大野和士	エーファ	林 正子
Artistic Director	ONO Kazushi	Eva	HAYASHI Masako
		マグダレーネ	山下牧子
後援	ドイツ連邦共和国大使館、 ゲーテ・インスティテュート東京	Magdalene	YAMASHITA Makiko
主催	文化庁/新国立劇場	夜警	志村文彦
		Ein Nachtwächter	SHIMURA Fumihiko

本公演は、新国立劇場、東京文化会館、ザルツブルク・イースター音楽祭、ザクセン州立歌劇場の国際共同制作で上演されます。

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/diemeistersingervonnurnberg/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* 乙席 1,650円:公演当日朝 10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引、当日学生割引(50%)など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

* 新国立劇場における新型コロナウイルス感染症拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのご願い

https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

新国立劇場 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp> 東京都渋谷区本町 1-1-1 京王新線新宿駅より1駅、初台駅直結。